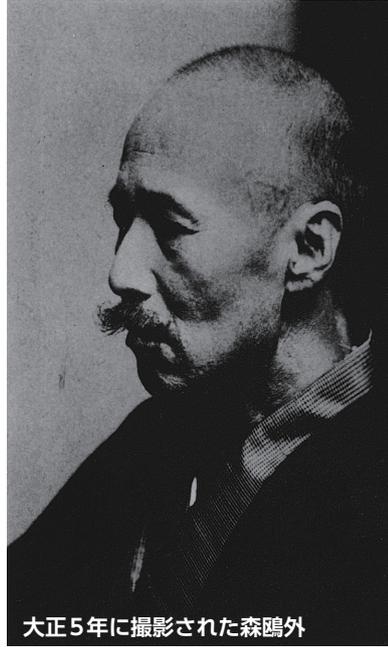


# 千住に住んでいた文豪森鷗外 もり おう がい

所在地: 千住中居町公園 千住中居町



大正5年に撮影された森鷗外  
国立国会図書館ウェブサイト「近代日本人の肖像」より転載

## 大正記念道碑 たいしやうきねんどうひ

千住大川町の氷川神社前から南へまっすぐに伸び、桜土手に至る延長1052mの大正新道。その敷設を記念して、大正5年(1916)10月に千住地域の有志が建立したのが、この大正記念道碑です。石碑の高さは2.5m程もある大きく立派なもので、もとは千住宮元町29に所在していましたが、平成26年4月に大正新道に面する千住中居町公園に移設整備されました。

碑に刻まれている文章は、森鷗外が書いたものです。鷗外は、父静男が千住に開業した橘井堂森医院(千住1-30-8)に明治14年(1879)から医師として暮らしはじめました。その後、明治17年にドイツへ留学し、明治21年に帰国するとまた千住に戻り、翌年に結婚して根岸に引っ越すまで住み続けました。

碑文の最後には、「千住は父がかつて住んだところでなじみがあり、辞退するわけにもいかず、いわれを書いて与えた」(口語訳)とあり、千住と文豪森鷗外の深い縁を伝えています。

### 文化財豆知識

やはり、森鷗外はすごかった…二つの肩書を持つ鷗外文豪として知られる鷗外の本職は医者であり、有名な『舞姫』を発表した翌年の明治24年に「医学博士」となっています。博士号はひとつでも取得するのが困難ですが、その後、鷗外は明治42年に「文学博士」となっています。そして、大正記念道碑に刻まれた鷗外の肩書は「文学博士」でした。医師として千住で暮らした鷗外は、文学者として千住に里帰りしたのです。

石碑の部分拡大  
「文学博士 森林太郎 撰文」

